

14  
40

史蹟名勝天然紀念物調査報告第二十七號

# 天然紀念物調査報告

大阪府下及徳島縣下ノ植物ニ關スルモノ

大正十年六月

史蹟名勝天然紀念物調査會考査員

吉井義次

# 始





14.5-40



目次

大阪府



和泉國葛城山ふなノ純林.....一

德島縣

德島縣 大樹.....九

德島縣 小松島ノあこう.....一五

德島縣 貴那郡辨天島ノ熱帶性植物群落.....二三

圖版目次

第一圖版 和泉國葛城山頂ノふな林.....對一

第二圖版(第一) 葛城山ふな林遠望.....對八

和泉國地理學會藏本

11 1.19 奇照





和泉國葛城山頂なぶ林 第一圖版  
尺二丈一周リ通日ノモノ前右

- 第二圖版(第二) 山頂ノ一部ヨリなぶ林ヲ下瞰ス……………對八
- 第三圖版(第一) 加茂ノ大樟遠望……………對二二
- 第三圖版(第二) 其ノ近景……………對二二
- 第四圖版(第一) 足代ノなぎ林……………對一四
- 第四圖版(第二) 足代ノなぎノ大樹……………對一四
- 第五圖版(第一) 小松島辨財天ノあこう……………對二〇
- 第五圖版(第二) 長島ノあこう……………對二〇
- 第六圖版(第一) 橋浦港内辨天島ノ南側……………對二六
- 第六圖版(第二) 辨天島西端……………對二六
- 第七圖版(第一) 辨天島北側……………對二六
- 第七圖版(第二) 辨天島頂上……………對二六



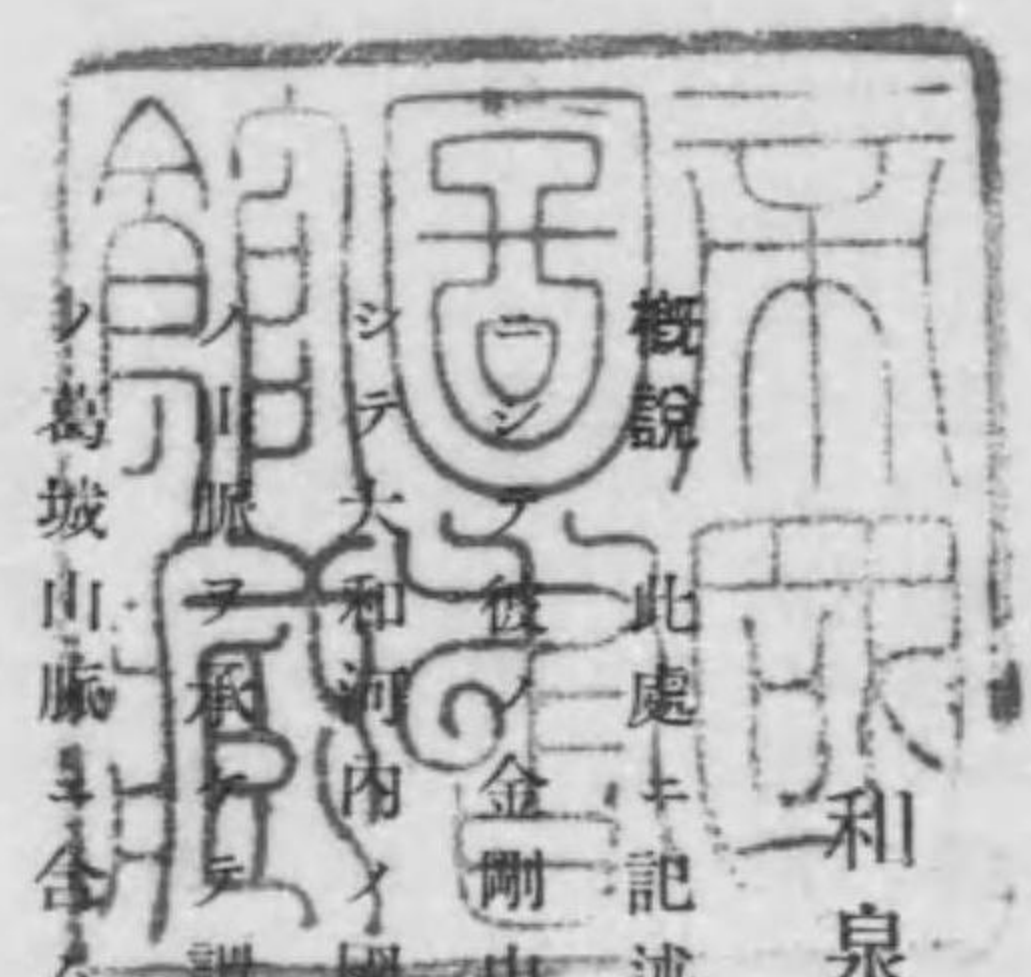


# 天然紀念物調査報告

(大阪府下及徳島縣下ノ植物ニ關スルモノ)

## 大阪府

### 和泉國葛城山ぶなノ純林



概説 此處ニ記述スル葛城山ハ和泉國泉南泉北ノ二郡並ニ紀伊國ニ跨レルモノ  
 金剛山ノ北ニ峙ツ葛城山ニ非ズ、謂ユル葛城山脈ハ山城ノ西南部ヨリ  
 シテ大和河内ノ國境ヲ南走シ内ニ生駒葛城金剛ノ諸峯ヲ起シ遂ニ紀伊ニ入ル、此  
 山脈ヲ承テ謂ユル和泉山脈陸地測量部五萬分ノ一地圖ニハ此ノ山系モ上述  
 ノ葛城山脈トシテハ河内並ニ和泉ノ南部紀伊トノ國境ヲ西ニ走ツテ大阪灣ニ流  
 ル、此處ニ云フ葛城山ハ實ニ此ノ和泉山脈(又ハ和泉山塊)ノ中堅ニシテ標高八百五  
 十七米ニ及ビ岸和田町ノ東南約四里ニ位シ山上ニ高靈神社ヲ祭ル、山頂ノ展望ハ  
 極メテ佳ク東ニハ大石峯經塚山宿山等控ヘ遠ク金剛山聳エ西ニハ犬鳴山一帯ノ  
 小峯連ナツテ海ニ入レリ、而シテ南方ハ廣裕トシテ開ケ其處ニ起伏セル紀伊ノ山



地ヲ越エ遙カニ大臺原山山上嶽釋迦嶽等ノ高峯ヲ望ミ高野ノ峯ハ指呼ノ内ニ在  
リ斯クテ北ニ頭ヲ轉ズレバ山頂ノ鬱々タルぶな林ハ視界ヲ遮レドモ樹上遙カニ  
大阪灣ノ浮ブヲ見ルベシ

扱テぶなハ温帯ニ生ズル落葉喬木ニシテ高サ數丈ニ達シ周圍亦一丈餘ニ及ブ  
モノアリ其ノ分布區域ハ廣クシテ關東地方ノ諸山ニ於テハ諸々ニ其ノ森林帶ノ  
主要木ヲナシ又東北地方ニモ多ク更ニ北海道ハ渡島ノ一部ニ迄分布セリ此ノ如  
ク本邦中部森林帶ノ顯著ナル樹木ナルガ故ニ特ニ森林學者ハ此ノ地方ヲぶな帶  
ト稱シテ以テ我國温帯ノ中軸トセリ

斯クぶなノ森林ハ關東並ニ東北地方ニハ普通ナルモノナルガ漸ク西南地方ニ  
至ルニ從ヒ生育スルモノ少ナク四國九州地方ニテハ僅カニ諸高山ノ一部ニ其ノ  
自生ヲ見ルニ過ギズ既ニ畿内地方ニテモぶなノ自生スル所ハ多カラズ大和ノ大  
臺原山ハ其ノ著シキモノナルガ殊ニ河内和泉ノ比較的的低キ諸山ニ尙其ノ自生地  
ヲ見ルハぶな分布上特ニ注意スベキモノナリ

葛城山ハ前述ノ如ク和泉山脈ノ一高峯ナリト雖モ山頂海拔二千八百餘尺ニ過

ギズ又里域ヨリモ遠カラズシテ深山ト稱スベキニモ非ズ而カモ山頂ヲ被ヒテぶ  
なノ純林ヲ見ルハ興味アルコト、云フベシ

今河内和泉地方ニ於ケルぶなノ分布ヲ案ズルニ河内ノ金剛山ヲ始メ本山ノ東  
ニハ宿山西ニハ犬鳴山ノ如キ同ジク其ノ自生アリトノコトナレバぶなノ分布ハ  
此ノ山系ノ諸山ニハ系統的ニ求ムルヲ得ベキモノナラン

然レドモ本山ニ見ルガ如クぶなノ大樹老木群生シテ鬱蒼タル純林ヲ殘セル地  
ハ他ニ非ザルナリ故松田定久氏ハ篤學ナル植物學者ニシテ又曩ニ近畿地方ヲ跋  
渉シ此ノ地方ノ植物ニ精通セラレタリ生前葛城山ノぶな純林ノ極メテ著シキモ  
ノナリトシ我國植物分布上ヨリ深ク其ノ伐採ヲ憂ヘ切リニ余ノ調査ヲ慫慂セリ  
即チ調査ヲ了リテ歸來セバ不幸斯ノ人ナシ只此ノぶな林ノ能ク久シク存スルヲ  
得ンカ

### 葛城山ノぶなノ純林

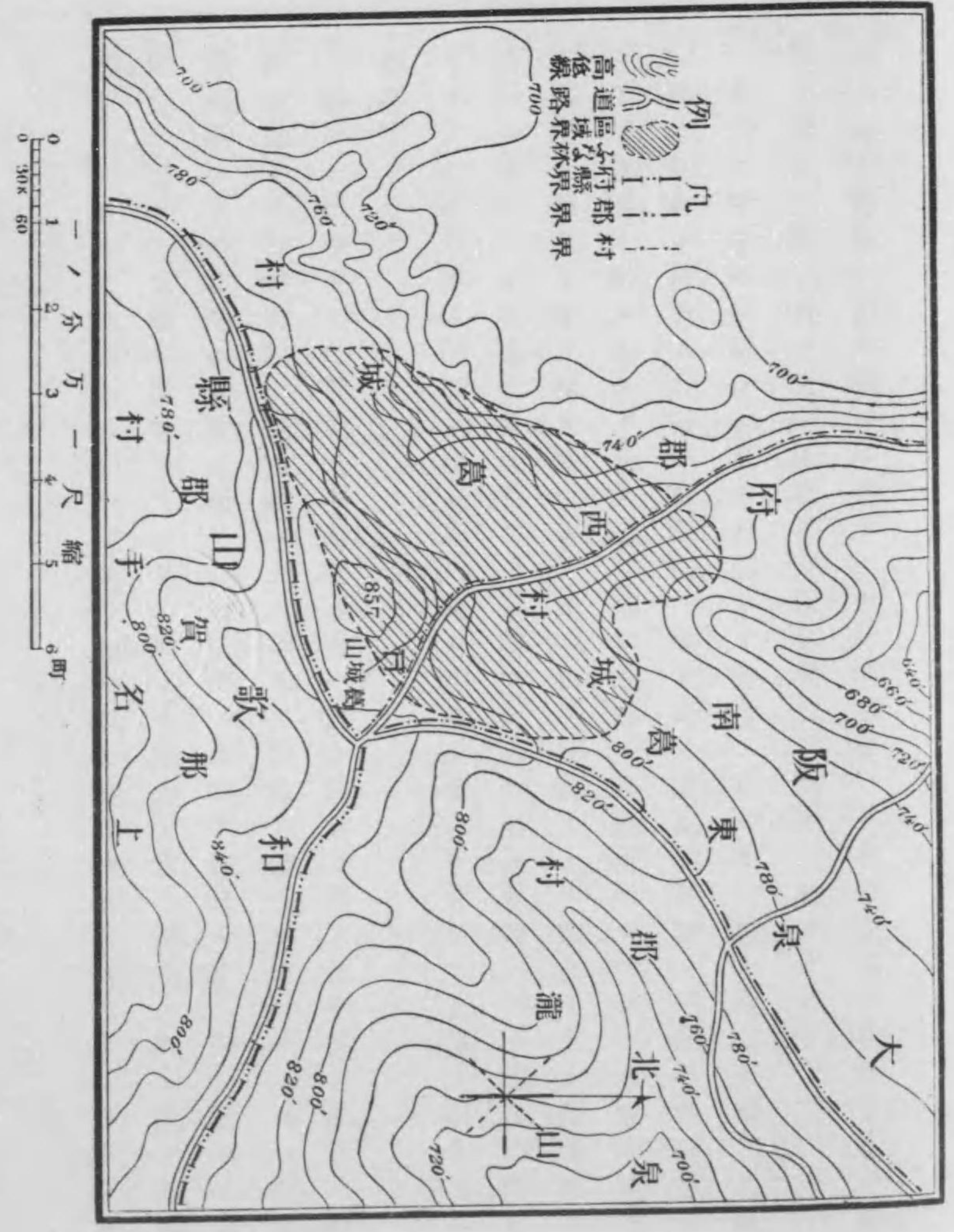
葛城山ハ上述セル如ク岸和田町ヲ東南ニ去ル大略四里ニ位シ岸和田驛ヨリ河  
合、塔ノ原ノ村落ヲ經テ紀州名手ニ通ズル葛城街道ハ此ノ山頂ヲ越ユ山麓ニ東西



葛城ノ二村アリ塔ノ原、蕎原ノ兩部落ハ此ノ二村ニ別屬シ葛城山ノぶな林ヲ保管スルコト後段ニ述ブルガ如シ

今東葛城村塔ノ原(村役場ノ所在地)ヨリ進メハ直チニ山路トナリ左ニ溪流ヲ下瞰シテ急坂ヲ登レバ十數町ニシテ標高五百廿米ヲ示ス枇杷ナル一地點ニ達ス、此ヨリ更ニ坂路ヲ迎レバ其ノ左右ハこなら、くぬぎ、ぐり、しで、はん等ノ落葉雜木林ニシテ其ノ一部ニハ檜杉松等ノ植樹アリ尙ホ此ノ中腹ヲ過ギ稍ヤ山頂ニ近キ部分ニハ諸所ニ松ノ老木亭立スルヲ見ル即チ昔日此邊ノ山路ヲ被ヒシ林相ノ一部ヲ窺ヒ知ルベシ

斯クテ一高地ヲ登ツテ始メテ山頂ヲ仰ギ得ハ遙ニ大樹互ニ枝條ヲ混ヘテ樹立スルヲ望見スベシ是レ皆ぶなノ老樹ニシテ山頂ヲ被テ群生セルナリ(第二圖版) 扱テ和泉山脈ハ前述ノ如ク和泉ト紀伊トノ國境ヲ東西ニ走ル而シテ此ノ山系ハ葛城山ヲ基點トシ一部北走シ牛瀧山ニ連リ以テ和泉國ヲ泉北泉南ノ二郡ニ分ツ即チ高麗神社ノ鎮座スル所ハ此ノ山頂ノ最高點ニシテ又葛城街道ノ峠ニ當ル而シテ此ノ山頂ハ其ノ一角ヨリ又西北ニ向ツテ緩傾斜ヲナシテ下リ其ノ山背ハ





實ニ葛城街道ノ岸和田ヨリ進メルモノ、横タハル所ナリ此ノ山背ニヨリ東西ニ深キ溪谷ヲ起シ其ノ末ニ上記ノ東西葛城二村ヲ生ゼシムルナリ

ぶなノ生育セル所ハ神社ノ北面ヨリ街道ニ沿ヒ此ノ狭キ山背大略二百餘間並ニ其ノ左右ノ彎入セル谷ノ傾斜面ニシテ即チ東葛城村塔ノ原並ニ西葛城村ノ蕎原ノ兩部落ニ跨ル而シテ此ノぶな林ノ上部ハ高麗神社ヨリ北へ約數十間西へ約二百間ノ間共ニ此ノ嶺ヲ境トシテ單ニ山ノ反面ニノミ劃然ト其ノ生育地ヲ限ル是レ一見奇ナル現象ナリト云フベシ即チ紀州ニ屬スル地ニテハ現在一樹ノ生ズルモノナク只茅ノ一面ニ茂レルニ反シ和泉ニ屬スル部ニハ上述ノ如キぶなノ老樹林アリ

斯カル分布上ノ奇現象ヲ現時呈スルハ其ノ根本ニ於テ生態的ノ原因ニヨルニ非ズ恐ラク舊藩時代ニ紀州領ニテハ樹木ヲ伐採シ盡セシガ爲ナルベシ之ニ反シ岡部領ニテハ此處ニ神社ヲ祭り同時ニ此ノ山林ヲ保護セシニ因ルナラン、又現時・幾多ノ種子ノ自然ニ散布セラレツ、アルニ拘ラズ尙ホ紀州ノ部ニ此ノ幼樹ヲモ見ザルハぶなノ性陰樹ナレバ現在ノ如キ既ニ豁達セル山頂ニテハ生長シ得ザル



ニ因ルベシ勿論嘗テハ山頂ヲ被ヒテ一大森林ヲ構成セシ時モアルベシ  
扱テ現時ノ山林面積ハ十町五反八畝十五歩ニシテ内二町四反歩ハ高靈神社ノ  
境内林ニシテ他ハ此ノ神社氏子五ヶ字(内東葛城村三、西葛城村二)ノ共有ナリ即チ  
明治三十四年ニ氏子總代ニ拂下ゲラレシモノニシテ同四十二年保安林解除トナ  
ルモノナリト云フ

此ノ樹林ハ殆ンドぶなノ純林ニシテ他ニ生育スル大樹トシテハ僅カニ松ノ老  
木山嶺ニ數本アリ他ニ杉ト樅ノ二三株ヲ見ルノミニシテ他ニハ數種ノ落葉瀾葉  
樹アレドモ何レモぶなノ下木ニシテ從ツテ又目通二、三尺ヲ越エズ是レ一ニハぶ  
なノ老木ノ樹陰ニテ生育可ナラザルニモ因ルベケレド又此等ノ樹木ハ薪炭材ト  
シテ數年毎ニ伐採スト云ヘバ之レ其ノ主因タルベシ

斯クテ此ぶな林ヲナスぶな樹ノ數ハ目通三尺以上ノモノ約千八百本トセラル  
而モ多クハ目通り五六尺乃至七八尺ノモノニシテ其ノ一丈以上ニ達スルモノモ  
亦多シ此ノ如ク多數ノ大樹ガ此ノ一小區域ニ繁茂セルモノナレバ春夏ノ候此ノ  
樹林ノ最モ盛ンニ繁茂セルノ時ニハ如何ニ此ノ樹林ノ壯觀ヲ呈スルカ想像ニ難

カラズ

然レドモ冬期枯葉全ク地ニ落ち只僅ニ果實ノ尙ホ殘レル時青緑ノやどりぎ枝條  
ニ掛カレル又一種ノ壯美ナラズンバアラズ

此等周圍數尺乃至一丈ニ餘ル老木ノ幹肌ハ老ヒテ益々其ノ固有ノ灰青色著シ  
ク謂ユル古色蒼然タルモノアリ斯ク數百年ヲ山頂ノ風雨ニ晒サレツ、遲々トシ  
テ生育セシ此等ノ老木ハ或ハ其ノ樹幹彎曲シ又ハ其ノ樹枝枉曲シテ丈比較的高  
カラズ(山頂ノモノハ周一丈餘ニシテ高サ尙ホ數丈ヲ出デズ)全形恰モ笠狀ヲナス  
ヲ常トス而シテ此等ノ樹幹ハ數間乃至十間ヲ隔テツ、密接シテ生育スルガ故ニ  
此ノぶな樹林ノ遠景一塊トナリテ見ユルモ是レガ爲メナリ

保存ノ理由 和泉國葛城山ノぶな純林ノ現況ハ大略上述ノ如シ我國内尙ホぶな  
ノ天然林ヲ深山高峯ニ求メ得ベキコト既ニ説ケルガ如シ然レドモ畿内地方ノ如  
キ既ニぶな分布上南限地圈内ニ近キ地ニアツテ此ノ如ク此ノ老樹木二千餘本一  
山ニ群ツテ其ノ純林ヲ構成スルハ單ニ森林植物分布上重要ナルノミナラズ實ニ  
自然美ヲ表現スル價值アル天然紀念物ト稱スルヲ得ベシ、現時ノ和泉山脈ノ如ク





望遠林なぶ山城葛 (一第)版圖二第



ス瞰下ヲ林なぶりヨ部一ノ頂山 (二第)版圖二第  
リナざりどやハルタ々點上枝樹

連山既ニ樹木多カラズ僅カニ諸所ニ人爲的更新ニヨリ形成セラレシ樹林ヲ見ル  
ノミナルニ獨リ此ノ葛城山ニふなノ天然林ヲ見ルハ寧ロ奇蹟ト云フヲ得ベク鐵  
路ヨリ僅々數里ヲ出デズ又里間ヲ去ル遠カラズシテ然カモ山頂ニ此ノ如キ壯大  
ナル天然林ヲ見ルハ眞ニ自然ガ吾等ニ殘セル天然紀念物トシテ當ニ之ヲ保存ス  
ベキモノナルベシ

保存ノ方法 此ノ樹林ハ上述セルガ如ク大半ハ氏子總代ノ共有ニアリト雖モ此  
レトテ要ハ此ノ神社ヲ維持スルガ目的ナレバ此ノ點ヲ充分諒解ヲ得テ(大體ニ於  
テ氏子ハ保存ヲ望ムコト勿論ナリト雖モ)單ニ神社境内ノ國有林ノミナラズ今日  
ふなノ生育セル箇所全部ヲ保存スベキナリ尙ホ保存スルモ今日ノ如ク或ル一定  
ノ時期ニふなノ幼木ヲ除キ他ノ雜木ノ刈取ヲ村民ニ許スハ敢テ差支ナカルベシ  
只此樹林ノ大木ハ現時既ニ老ヒ爲ニ勢ヒ自然ニ枯損スルモノアルガ如キモ之  
レ別ニ方法ヲ講ズベキモノニモ非ザルベク只恐ルベキハ火災ナルベシ上述セル  
如ク此ふな林ノ周圍ニハ雜木林及ビ植林セルアレドモ今日ニテハ多ク若木ニシ  
テ直接此等ヨリ野火ノ至ル憂ハ少ナキモ只此ふな林内ヲ葛城街道通過スルニヨ



リ此樹林内ヨリ火災ノ起ル憂無キニ非ザレバ此點ハ特ニ一層ノ注意ヲ要スベシ

## 德島縣

### 一 德島縣ノ大樹

概説 德島縣ニ於テ暖地性樹木ノ老木又ハ大樹トナルモノヲ比較的多ク見ルハ此ノ縣ノ地理的位置ヨリ考フレバ敢テ異トスルニ足ラザレドモ殊ニ公孫樹樟竹柏等ノ樹種ニ其ノ大ナルモノアリ

名西郡瀬部ノ乳いてうト板野郡矢上ノ大樟トハ何レモ周圍數丈ニ達シ本縣ニ於ケル老木ノ双壁トセラレ幾多ノ傳説ト共ニ古來ヨリ著名ナルモノナリ然シ共ニ祝融ノ厄ニ罹リ現時ハ樹勢モ旺ナラズ又此等ヲ全國ノ同種類ノ樹木ト比スルニ其ノ大サノミヲ以テシテハ未ダ比類ナキガ程ノモノニモ非ズサレバ余ハ本縣ノ代表的樹木トシテハ寧ロ加茂ノ大樟ト足代ノ竹柏トヲ舉ゲントスルモノナリ

加茂ノ大樟 三好郡加茂村字加藤ニ在リ德島市ヨリ池田町ニ至ル鐵道ノ一小驛



阿波加茂ニテ下車スレバ十數町ニテ其ノ所存地ニ達シ得ベシ此ノ大樟ノ傍ニハ若宮社ナル小祠在リシガ往年ノ神社合祠ニ際シ他ニ移サレ今ハ此ノ樟ノミ田畑ノ間ニ立テリ樹ノ大サハ周圍目通り四丈二尺高サ約十二間ニシテ其ノ樹枝ノ張り方ハ略ボ圓形ヲナシ其ノ直徑ハ大凡二十間ニ達スベシ此ノ如ク地上數尺ノ邊ニテハ周四丈餘ニ過ギザルモ附圖ニ見ル如ク此ノ樹ノ主幹ハ鼓形ヲナスヲ以テ若シ地上約一丈五尺即チ下枝ノ分出スル下ニテハ周優ニ六丈餘ニ達スベキ稀ニ見ル大木ナリ而シテ四方ニ一樣ニ張レル樹枝ノ内下部ニ在ルモノハ稍ヤ下垂シテ擴ガリ上部ノモノ之ニ相重ナリ密生シテ繁茂スルガ故ニ全形トシテハ恰モ菌傘ノ開ケルガ如シ斯ク樹勢旺盛ナル一大樹形ヲ以テ只一樹田畑中ニ立ツガ故ニ一層其ノ形貌著シクシテ遠ク諸方ヨリ望ムヲ得ベク其ノ遠望ハ一樹ニシテ尙ホ鎮守ノ森ノ有ルガ如シ

凡ソ樟ニハ老樹大木多ク從テ本樹ノ如キ或ハ未ダ我が國樟ノ代表的大木トナスニ足ラザルベシト雖モ謂ユル大樹ノ内ニハ既ニ其ノ樹幹ノ大部朽敗シ又ハ樹枝枯損シ只僅カニ生育スルト云フニ止マルモノ多シ勿論其等モ老木トシテハ相

當ノ價值無キニ非ザルベシト雖モ眞ニ或ル樹種ノ代表的樹木トシテ擧グベキモノハ單ニ偉大ナルノミナラズ先ヅ樹勢ノ旺盛ナルヲ要シ且ツ完全ニ發達シ其ノ樹形モ該樹種トシテノ特長ヲ具有セルモノナラザルベカラズ斯ク見至レバ此ノ樟ノ如キ當ニ樟樹ノ範型的代表樹ノ内ニ列スルモノト云フベシ殊ニ其ノ生育スル位置ハ至便ノ處ニシテ且ツ他ニ此ノ大樹ノ雄美ヲ遮ルモノトテナク實ニ名木トシテ特記スルニ足レリ恐ラク我國内數多キ樟樹ノ大木中ニテモ比類少ナキ逸品ト稱スルヲ得ベシ

**保存ノ價值並ニ保存ノ方法** 本樹ノ樟ノ名木トシテ價值アルコト上述ノ如シ而シテ此ノ樹ハ元來一私人ノ所有ニ屬スルモ他ノ大樹ニモ常ニ見ルガ如キ或ル種ノ迷信的信念ノ下ニ里人ニヨリ保存セラレ以テ祠堂ノ他ニ移サレシ時モ此レノミ伐採ノ厄ヲ遁レ今日ニテハ村人ノ共有ノ形トナレリト聞クサレド未ダ特ニ保存ノ方法講ゼラレシト云フニ非ズ從ツテ今ニ於テ確然タル保存ノ處置ヲ講ズルニ非ズンバ何時如何ナル理由ノモトニ倒伐セラル、ヤ知ルベカラズ即チ保存ノ急ヲ要スル所以ナリ





望遠樟大ノ茂加 (一第)版圖三第



景近ノ其 (二第)版圖三第

保存ノ方法トシテハ少クトモ現在以上ニ現今ハ此樹ヲ中心トシテ大凡十坪程空地アリ此樹ノ周圍ノ地ヲ犯スコトナク又將來ニモ尙ホ其ノ周圍樹下ノ地ハ現時ノ如ク田畑トナシ置クヲ必要トスベク其ノ他直接該樹ヲ損傷スベキ行爲ヲ禁止スベキハ勿論ナリトス從ツテ現ニ此ノ樹下ノ一部ニ植樹セル杉ノ如キ適當ノ期ニ除去スルヲ可トスベシ次ニ保存ノ形式ナルガ本樹ハ樟ノ代表的名木トシテ其名ヲ辱シメザルモノナルガ此レヲ保存類別第一類ニ該當セシメンニハ尙ホ他ノ同樹種ノモノニ就テ大凡一般的ニ調査比較スルノ必要モアルベシサレバ先ヅ取り敢ヘズ保存類別第二類ニヨリ地方的ニ保存セシメ以テ該樹保存上遺憾ナキヲ期センコトヲ望ム

足代ノ竹柏 竹柏ノ稍ヤ大ナルモノ本縣ニハ多シ而シテ諸所ニ此ノ樹ノ群生スルヲ聞ク殊ニ阿波郡林村日吉神社境内ニハ竹柏ノ大樹大凡百餘本アリ稀ニ見ル竹柏ノ純林ヲナスト云フ故ニ德島縣山林會報第十八號大正三年二月發行先ヅ此ヲ調査セシニ驚クベキコトニハ既ニ神社合祠ノ結果トシテ一昨年此ノ神社境内ノ竹柏ハ全部伐採セラレ現時ハ雜草木ノ混生スル間ニ殘ル切株ニ據リ此ノ純



林ノ繁茂セシ當時ヲ忍ブニ過ギズ斯ノ如ク稀ニ見ル樹種ノ自然林若クハ數百年  
來自然林化セルモノガ一朝ニシテ些少ノ利害ノ爲メニ其ノ全貌ヲ斷チ再ビ永久  
ニ其ノ地固有ノ林相ヲ窺フヲ得ズ其ノ郷土特有ノ色彩ヲ失フニ至ルハ誠ニ遺憾  
ニ堪ヘザルコトニシテ保存事業ノ益々緊急ナルヲ思ハザルヲ得ズ  
扱テ上述ノ竹柏林ニ次ギ樹數モ多ク且大樹ノ多キハ足代ノ竹柏林ナリト  
足代ノ竹柏ハ三好郡足代村八幡神社境内並ニ字宮ノ前ニ在リ徳島ヨリ池田線  
ヲトレバ加茂又ハ辻驛ヨリ約一里半ノ所ニ在リ八幡神社ハ郷社ニシテ祠モ大ニ  
境内モ廣ク内ニ竹柏ト樟トノ大木多シ竹柏ハ周三尺乃至五尺位ノモノ多數ニシ  
テ八、九尺ニ及ブモノ又數本アリ合計四十餘本何レモ見事ナル樹勢ニシテ稀ニ見  
ル社叢樹林ナリト云フベシ此ノ境内ヨリ縣道ヲ挾ミテ民有地ニ一樹最大ノモノ  
アリ(即チ宮ノ前ノモノ)目通り一丈二尺餘樹高八間ニ及ビ樹勢ハ尙ホ盛ンニシテ  
竹柏トシテハ稀ニ見ル大木ナリ此ノ樹下ニハ小祠アリ其ノ傍ニ尼ノ屯所アリ扱  
テ此ノ大樹ト神社境内ノモノトハ其ノ起源ヲ同ジクセルモノナルベク只後ニ至  
リ其ノ位置ニヨリ所屬ヲ別ニシタルニ過ギザルベシ





林ぎなノ代足 (一第)版圖四第



樹大ノぎなノ代足 (二第)版圖四第

此等ノ竹柏ノ自生ナルヤ否ヤヲ決定スルハ容易ノ業ニ非ズ今其ノ生育スル位  
置其他ヨリ見レバ是等ハ神社境内ニ植樹セラレシモノトモ考フベシサレド又本  
縣ノ諸所ニ今日生育スル竹柏ノ所在地ニ就テハ(徳島縣技師梅木氏ノ所説ニ依レ  
バ大凡吉野川流域ニアル如シト云フ)確ニ一系統的分布ノ存在ハ否ムベキニ非ズ  
竹柏ガ此ノ邊ニ自生スルハ有リ得ベキ事ナレバ或ハ自然林此ノ附近ニ存シ其ノ  
一部ガ特ニ神社トノ關係ニヨリ今日迄保護セラレ残リシモノトモ思ハルベシ何  
レニセヨ此ノ境内附近ニハ嘗テハ現在以上ニ多クノ竹柏繁茂セシモノト云フベ  
シ而シテ此ノ地ノ氣候ハ良ク竹柏ノ生育ニ適スルコトハ此等樹木ノ盛ンニ繁生  
スル事ニヨリ知ルベシ

保存ノ價值並ニ方法 即チ此ノ八幡神社境内ノ竹柏樹林ハ此ノ附近ノ代表的樹  
林ト見做シ得ベク從ツテ此レヲ自然林ト確認シ得ズトモ尙ホ社叢樹林ノ特殊ナ  
ル一代表タル天然紀念物ト稱スベキナリ

斯ク竹柏ノ如ク暖地ニノミ生育スル樹木ノ大樹ガ一ヶ所ニ群生スルハ其ノ例  
ニ乏シカルベク即チ少クトモ地方的ニハ保存ノ要アリ暫ク此處ニ記シテ他日他



ノ地方ニ於ケル同種類ノモノ、調査ヲ待ツ、恐ラク此ノ竹柏林ノ如キ國家的ニモ  
價値アル天然紀念物トシテ認メラル、ニ至ラン  
保存ノ方法 差當リ第二類ノモノトシテ地方的ニ保存スベシ、大部神社ノ有ナル  
ヲ以テ比較的の安全ニシテ只直接間接此等ノ樹木ヲ損ズル所爲ヲ禁ズルノミニテ  
足ルベシ此ノ點ハ加茂ノ大樟ヨリモ容易ナリ

### 一 德島縣小松島ノあこ

四國ニ於ケルあこ分布ノ一般ニ關シテハ曩ニ之ヲ記述セリ(史蹟名勝天然紀念  
物調査報告第十八  
號)當時余ハ小松島ノあこニ就テ其ノ自生ナルヤ否ヤヲ確ムルハ實地調査ノ必  
要ナルコトヲ説ケリ

扱テ此處ニあこノ存在スルコトハ既ニ明治二十九年白井博士ニヨリ(植物學  
雜誌第  
二十一卷第百  
二十三號)記サレタリ左ニ其ノ一節ヲ抄録センニ

劍山ニ伴ヒシ人足ノ話ニ德島市ノ南三里許ニ小松島ト呼ブ地アリ此處ノ海岸  
ニ金磯辨天トテ辨天堂アリ其ノ堂後ニ小丘アリ(中略)此ノ山ニ唐木ナリト云傳



フル一種ノ異木アリ何人モ其名ヲ知ラズト云フ予探檢ノ念措ク能ハズ此處ニ至リ其ノ樹ヲ見ルニあこウナリ直徑二尺餘ニシテ中心ハ已ニ空洞ヲナシ周圍ニ條葉ヲ多ク生ジ又枯損セリ地圖ヲ按ズルニ此ノ金磯ノ地ハ北緯凡三十四度ニ當レリ思フニ四國中此ヨリ北ニハ恐ラク復此ノ木ヲ見ザルベシ云々

此ノ如ク此ノ地ニあこウノ生育スルコトハ單ニ此ノ地方ニテ異トセラレシノミナラズ又該樹ノ分布上ヨリ深ク學者ノ注意ヲ惹ケリ

あこウノ存在地ハ上ニ記ス如ク德島縣勝浦郡小松島町金磯辨財天境内並ニ此ノ地ノ離島ニシテ小松島町ヨリ德島ニ至ル鐵道ハ中ノ郷ヨリ分岐シ金磯驛ニ達ス其ヨリ東南約十町ニシテ辨財天ニ至リ得ベシ

辨財天ノ祠ハ小松島灣ニ臨ミ境内又廣ク樹木ヨク茂リ此ノ背後ノ丘陵ハ海ニ接シテ斷崖ヲナセリ即チ此ノ小丘ニ立テハ灣内ニ浮ブ二三ノ小島ハ眼下ニ在リ彼方ニ和田岬ヲカスメテ渺茫タル紀伊ノ海ヲ望ムベク眺望極メテ佳ナリ故ニ寧ロ遊覽地トシテ德島市等ヨリ杖ヲ曳クモノ常ニ絶エザルガ程ナリ

あこウハ此ノ辨財天ノ祠ノ南方十數間ヲ隔テ丘陵ノ岩角露出セル所大凡二丈程(徑路ヨリ)ノ岩上ニ數多ノ氣根ヲ現ハシ數條ノ枝幹ハ各周圍目通り大凡一、二尺ノ間ニアリ相集ツテ一大樹形ヲナシ地ヲ被ヒタリ此ノ樹幹ノ下部ニ切株ヲ示セルハ良ク前掲ノ白井博士ノ記事ト一致ス即チ近時ニ於テ主幹ハ枯損又ハ伐採ニヨリ失ハレシヲ知ルベシ此ノ偉大ナリシ幹ヨリ推スモ此ノあこウノ此ノ地ニ生育セシハ久シキモノナリ只惜ムラクハ之ニ關スル記録ナク何時ノ頃ヨリ里人ノ注意ヲ惹クニ至リシカ知ルヲ得ズ從ツテ此ノあこウノ自生ナルヤ換言スレバあこウノ分布ガ此ノ地ニ迄及ブヤ否ヤトノ問題ヲ決定センハ困難ニシテ只該樹ノ現時分布スル狀況ヲ主トシ加之此ノ樹ノ特性ト生育地ノ狀態並ニ其ノ生育ノ現狀トニ照シ推定ヲ下スヨリ他ニ途ナシ

小松島ノあこウハ自生ナルカ 四國ニ於ケルあこウ分布ノ狀ハ曩ニ報告セル如ク西方伊豫ノ佐田岬以南足摺岬ヲ廻リ四國ノ南海岸全般ニ亘リ其ノ岬角ノ海中ニ突出セル地ニハ大方其ノ自生ヲ示シ遂ニ東南室戸岬ニ至ツテ其ノ純林ヲ示セリ然レドモ此ノ四國ノ西南海岸ニ分布スルモノハ其ノ東海岸並ニ紀州ニ分布スルモノトハ稍ヤ分布ノ系統ヲ別ツニヨリ此處ニハ只四國ノ東海岸即チ室戸岬以



北ニ於ケル分布ノ狀ヲ究メントス

今先ヅ此ノあこうノ地理的分布ヲ見ニ別記スル如ク此ノ南方數里橘浦灣内ノ一小島辨天島ニハあこうノ大ナルモノ數株アリ又其ノ對岸紀伊ノ日高有田兩郡ノ海岸ニモ該樹ノ大木アリトノコトナレバ(恐ラク自生ナルベシ)假令室戸岬ヨリ橘浦港ニ至ル二十餘里ノ海岸並ニ之ニ對應スル紀伊ノ南海岸ニ其ノ生育ヲ見ズトスルモ(將來精密ニ調査セバ生育地ヲ見得ベキカ)單ニ其ノコトヲ以テ橘浦灣内並ニ此ノ地ノモノヲ自然分布ニ非ズト稱シ得ズ

凡ソあこうノ如ク比較的明カニ系統的分布ヲ示ス植物ニテモ必ズシモ生育地ガ連貫シテ現出セラルベキモノニハ非ズ該樹ノ如ク特種ノ生育状態ヲナスモノニテハ其ノ分布ノ限界地ニ於テ隱見シテ僅カニ其ノ分布ノ可能性ヲ示スハ寧ろ當然ノコト、云フベシ即チ室戸岬以北ニ遠ク隔離シテ生育スルコトハ敢テ異トスルニ足ラザルベシ

故ニ此ノ地理的自然分布ノ可能圈内ニ於テ其ノ自生ナルヤ否ヤヲ論定センニハ該生育地ノ外圍狀態ガ該樹自然ノ生育ニ適スルヤ又ハ其ノ生育地ト人爲的分

布トノ關係如何並ニ其ノ生育シツ、アルモノ、狀ガ良ク自生ノ狀ヲナスヤ等ヲ考慮シテ決定スベキモノナルベシ

今徳島市ノ年平均温度ヲ見ルニ約十五度ニシテ之ヲ他ノ分布北限地ナル伊豫ノ佐田岬又ハ九州ノ平戸地方(自生ノモノト見做シ)ノ其レト比スルニ甚ダシキ差異ナク又生育地ハ海岸ノ岩壁上ニシテ該樹ノ四國地方一般ノ自生地ニ生育スル狀ト同様ナリ

次ニ此ノあこう生育ノ狀ヲ見ルニ良ク繁茂シ(即チ明治卅年頃ニハ直徑二尺餘モアリシト云ヒ又其ノ後ノ枝幹ハ今日ノ如ク旺ニ繁生セリ)該樹ノ此地ニ適スルヲ知ルベシ殊ニ下記スル如ク此地ニ程遠カラヌ離島ニモ其ノ生育スルヲ見ルガ如キ皆少クトモ現時ハあこうノ天然ニ此地方ニ繁殖シ得ルヲ示セリ、即チ余ハ此地ノモノヲ橘浦港内並ニ紀州ニ在ルモノト其ノ分布系統ヲ一ニスルモノニシテ自然ニ分布シテ今日ニ至レルモノナリト認定セントスルモノナリ、從ツテ此地ノあこうハ四國東海岸ニ於ケル北限地ニアルモノト見做シ又實ニ我國ニ於ケル地理的緯度ノ最北限地ニ在ルモノニ非ズヤト考フルモノナリ、只此處ニ多少ノ疑問





うこあノ天財辨島松小 (一第)版圖五第



うこあノ島長 (二第)版圖五第  
リ在ニ×

ヲ挿ム餘地ヲ存スルハ該樹ノ生育スル所ガ辨財天境内ニシテ他ノ樹木ニハ古ク  
植樹セラレシモノト見ルベキモノアルガ故ニ或ハ此ノあこウモ古ク珍木トシテ  
他ノ南方近接地(假令バ橋浦港ノ如キ)ヨリ移植シタルモノニ非ズヤトノ點ナリ(勿  
論此ノ辨財天ト此ノあこウ又ハ其ノ親木ト何レガ古キモノカ確定シ得ズト雖モ)  
今假リニ該樹ヲ移植樹ト見做スモ下ニ記スガ如ク此ノ灣内ノ二小島ニ各一樹  
ツ、あこウノ良ク生育スル事實ハ看過スベカラザルコトナリ勿論二樹トモ大ナ  
ラズ從ツテ其ノ樹齡モ高カラズト雖モ共ニ岩壁上ニ在リ決シテ此ノ無人島ニ人  
爲的ニ持來ラレシモノニ非ズ即チ此ノ辨財天ノあこウヨリ其ノ種子鳥類ニ運バ  
レ自生スルニ至レルモノニシテ其ノ系統ヲ共ニスベキコト殆ンド疑ヲ容レズ即  
チ此ノ辨財天ノあこウヲ天然ニ生ゼシモノニ非ズトスルモ尙ホ該樹ノ此ノ地ニ  
天然ニ繁殖生育シ得ル事實ハ否ムベキニ非ズ此ノ點ヨリスルモ此ノ地ノあこウ  
ハ將來ノ研究上重要ナルコト論ヲ俟タズ況ヤ此ノモノヲ自生ト見做スヲ妥當ト  
スベシトハ余ノ上ニ詳論セルガ如シ即チ此ノ地ノあこウハ熱帶性植物分布上重  
要ナルモノニシテ天然紀念物トシテ大ニ價値アルモノト云フベシ



扱テ次ニ此ノ辨財天ヨリ海ヲ隔ツル僅カ一町ニシテ一小島アリ室岩又長島ト云フ周圍僅カ數十間ニシテ只巨岩ノ海上ニ突出セルノ感アリ此ノ岩頂ニあこうノ一樹アリ岩ノ裂割ニ沿ヒ長ク其ノ氣根ヲ下セルヲ見得ベシ(第五圖版第二)又之ヨリ三町程ニシテ又一小島八島アリ大サ又前者ト略ボ同ジク此ノ岩上ニモ亦あこう一木アリ

此ノ二者共ニ辨財天ノあこうヨリ分生セルモノト認ムベシトハ上述セルガ如シ從ツテ又天然紀念物トシテノ價值モ亦保存上ノ意義モ全ク辨財天ノあこうト一致スベキモノニシテ實ニ兩者ハ離シテ論ズベキニ非ズ又其ノ一ノミヲ保存スベキニモ非ズ共ニ一體トシテ取扱フベキモノナリ

**保存ノ方法** 辨財天ノあこうハ今日ニテハ此處ノ名木トシテ此處ニ至ルモノ必ズ此ノ異木ヲ訪フノ有様ニシテ神社ニテモ相應ノ注意ヲ拂ヒ居ル様ナレバ伐採サル、等ノコトハ萬無カルベシ又離島ノモノモ特ニ之ヲ折取スルガ如キ憂ハ殆ンドナシサレド勿論此等ノコトハ必ズシモ該樹ガ安全ニ保存シ得ベシト云フニ非ズ故ニ宜シク此ノあこうノ天然紀念物トシテノ價值ヲ明カニシ絶體的保存ノ



### 三 德島縣那賀郡辨天島ノ熱帶性植物群落

概説 德島縣ノ東端ハ紀伊水道ニ突出シ蒲生田崎ニ終レリ此ノ鼻ノ北部ハ稍ヤ深ク灣入シ内ニ長島高島小勝島等ノ諸島横タハル小勝島ノ北方極メテ小ナル一島アリ辨天島ト呼バル那賀郡ノ名邑橘町ヲ東ニ去ル海上約十三四町ニ在リ全島殆ンド岩石ヨリナリ周圍僅カニ數十間ニシテ東西ニ稍ヤ長ク全形大凡長方形ヲナス而シテ島ノ高サモ僅カ數間ナレドモ周圍ノ岩石ハ削ラレ僅カニ東方ヨリ岩根ヲ攀ヂ頂ニ至ルヲ得ルノミ此ノ頂部ハ約三四坪程ノ平坦ナル地ヲナシ草木良ク生ヒ茂リ其ノ間ニ小ナル石ノ祠アリ辨財天ヲ祭レルモノナルベシ

此ノ島ノ位置ハ北緯三十三度五十餘分ニシテ土佐ノ室戸崎ヲ東北ニ距ル約廿里德島市ノ南八里程ニシテ四國トシテハ寧ロ北部ニ位置スレドモ海洋ノ影響ヲ受ケ温度ハ比較的暖ク即チ次ニ記述スルガ如ク熱帶性植物又ハ暖地植物ノ盛ニ繁茂スルヲ見ル此ノ小島ノ如ク殆ンド未ダ人爲ノ影響ヲ受ケズ自然ノ儘ニ植

物が生育シ良ク海岸地方暖地植物自然分布ノ狀ヲ示スハ學術上極メテ貴重ナルモノト稱スベキナリ

辨天島ノ植物 巨岩疊積セル本島ノ周圍ハ朝夕海水ニ浸サル、ガ故ニ勿論陸生植物ノ生育スルモノナク其ノ内部ニテモ波濤ノ飛沫常ニ及ブ部分ニハ尙ホ草木ノ繁生スルコトナシ而シテ満潮線ヨリ數尺ヲ隔ツル部分ニ至ツテ始メテ二三ノ植物ノ繁生シ斯クテ潮線ヨリ去ルニ從ヒ漸ク植物多ク東方岩壁上ニ老松孤立シ此ヨリシテ島ノ中腹ニハ次ニ記ス如ク種々ノ樹木並ニ草本ヲ生ジ頂上ハ全ク植物ニテ被ハル、ニ至ル

次ニ此ノ小島ニ於ケル植物繁茂ノ狀ヲ概記センニ島ハ上述セル如ク東西ニ長ク南北ノ懸崖ハ陰陽兩地ニ區別セラル從ツテ兩面ニ於ケル植物ノ種類並ニ其ノ生育ノ狀ハ自ラ異レリ其ノ北側即チ外洋ニ面スル岩上ニハ僅カニあこウ二本生育セル外ハ岩壁ヲ被ヒテ殆ンド一面ニひとつば繁生スルノミナレドモ南側ニテハ之ニ反シあこウノ大ナルモノ(周圍二尺乃至四尺)ノミニテモ四株アリ又うばめがし(馬目樫)ノ大樹(周五尺)アリ其ノ下部岩石ノ間ニふじたでしこく二等ノ生ズルヲ

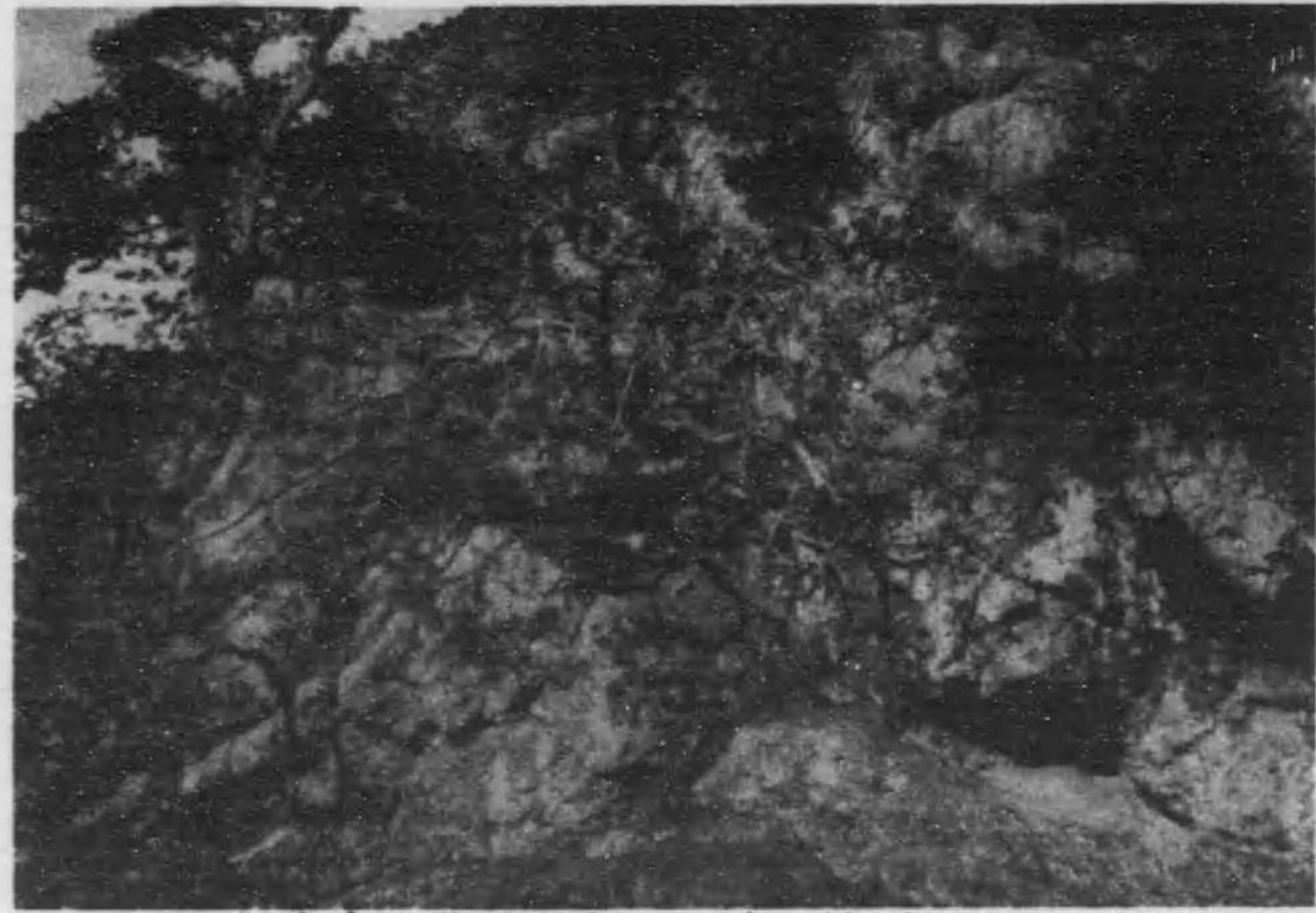


見タリ殊ニ著シキハ其ノ東南面ノ岩石上ニハききやうらんノ相連リテ盛シニ生育  
スルコトナリ此ノ植物ハ暖地海岸ニ生ズルモノニシテ九州南部ニハ間々見ルモ  
此ノ如ク北方ニ隔離セル地ニ迄分布セルハ未ダ知ラレザルコトニシテ植物分布  
上極メテ重要ナルモノナリ此ヨリ山頂ニ及ンデハやたけ多ク特ニ山頂ニテハ此  
ノ竹密生シ其ノ葉片ノ上ハ海鳥ノ糞ニテ汚染セラル此ノ内ニ槓ノ古木アリ周圍  
約三尺アレドモ高サハ僅カニ數尺ニ過ギズ即チ強風ノ爲メ其ノ上伸ヲ妨ゲラレ  
シ爲メナリ尙ホ此ノ附近ニハまさきあかめがし、いぬびは、アリ共ニ周約一尺餘アレ  
ドモ高サハ前樹ト伯仲ノ内ニアリ尙ホとべらノ木アリ特ニ著シキハあこうノ古  
木ニシテ此ノ山頂ヨリ多クノ枝幹ヲ南側ニ出ス此ノ木ハ本島ニ於ケルあこうノ  
最古木ナルベク其ノ主幹ハ既ニ枯レ根幹ヨリ考フルモ餘程ノ大樹ナリシナルベ  
シ現時見ルモノハ其ノ後ニ分出セル枝幹ナリ而カモ尙ホ其等二三尺以上ニ達ス  
更ニ西側ニ廻レバ同ジクあこう、うばめがしノ大樹岩壁上ニ立チ他ノ草本ハ多ク認  
メズ是レ此面ハ海ニ接スルコト近キ爲ナルベシ  
要スルニ本島ニテハ東南面ニ當ル岩壁並ニ頂ニ草木繁リ他ノ部ニテハ僅カニ

老木岩上ニ生育スルノミ而シテ主要ナル樹木トシテハあこう並ニうばめがしニ  
シテ前者ニテハ周二、三尺以上ノモノ十二、三株ニ及ビ後者モ亦尺以上ノモノ數株  
アリ此等ハ他ノまさき、いぬびは、とべら、まさき、あかめがしは、等ト共ニ此ノ島ノ樹木ガ暖  
地性ナルヲ示スモノナリ殊ニあこうニ就テハ曩ニ報告セル如ク又別記小松島辨  
財天ノモノニ就テ云ヘルガ如ク此ノ島ノモノハ其ノ地理的分布ノミヨリ考フル  
モ天然ニ生ゼシモノナルベシ殊ニ此ノ小島ニハ此ノあこうノ大ナルモノ十數株  
アリ皆海風ニ其ノ生育ヲ妨ゲラレ其ノ發育モ充分ナラザレドモ共ニ相應ニ古木  
ナルコトハ明ナリ而シテ此ノ島ハ只石ノ小祠アルト云フノミニシテ其ノ以外殆  
ンド里人ト何等ノ交渉ナク只舟航ノ目標又ハ橋港ノ防波堤ヲナスニ過ギズ此ノ  
如キ地ナレバ決シテ此等あこう並ニ他ノモノガ植樹セラレシモノト考フルヲ得  
ズ加之上記セルガ如クききやうらんノ如キ暖地ニノミ見ル草本アルアリ其ノ他ノ  
植物モ皆暖地性ノモノナリ即チ此等ト共ニあこうノ存在スルハ植物群落トシテ  
モ自然ノモノト云ヒ得ベク即チあこうハ當然天然ニ分布セルモノト稱スベク此  
ノ地ノモノハ該樹ノ北方限界地内ニアルモノニシテ特ニ別記小松島ノモノ並ニ



紀州ノモノニ關係深ク該樹分布上重要ナルモノナリ  
 保存ノ理由並ニ其ノ方法 此ノ一小島ハ其ノ位置ヨリ見ル時ハ四國ニテモ比較  
 的北方ニ位スルニ拘ラズ上述ノ如クあこ、うばめがしヲ始メ熱帶性又ハ暖地性植  
 物多ク殊ニききやうらんノ如キモノアリ此ノ島ノ植物ハ僅カ十數種ニ過ギズ極メ  
 テ簡單ナリト雖モ各自良ク自然ノ狀ニ發育シ自然界殊ニ島嶼ニ於ケル特種植物  
 繁茂ノ狀ヲ最モ良ク示スモノニテ其ノ分布學上ノ考證トシ又此ノ地方海岸植物  
 區系ノ一斑ヲ窺フニ足リ極メテ重要ナル孤島ト稱スベシ即チ暖熱兩植物帶轉移  
 ノ限界地ニ横タハル人爲ノ影響ヲ被ラザルモノトシテ學術上稀ニ見ル興味アル  
 一小島ニシテ從ツテ天然紀念物トシテモ價値多キモノナリ故ニ此ノ自然ノ狀態  
 ニ保存センコトハ最モ望マシキコトナリ  
 保存ノ方法トシテハ此ノ島ハ民有ナリトノ事ナレド直接所有主ニハ殆ンド實  
 益ヲ齎ス島ニモ非ザルガ故ニ其ノ指定モ困難ナラザルベク以テ絶體保存區域ト  
 シテ人爲ノ影響ヲ避クレバ可ナリ



側南島天辨内港橋 (一第)版圖六第  
 しがめばう うこあ うこあ んらうやきき



端西島天辨 (二第)版圖六第  
 うこあ





側北島天辨 (一第)版圖七第  
うこあ



上頂島天辨 (二第)版圖七第  
しがめぼう 木大ノウこあ けたや



145  
40

大正十年十二月

内務省



終